

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述などは、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや確実性がありますことを、予めご了承ください。



株式会社バイキューブ

2015年12月期 決算説明資料

2016/02/12

株式会社バイキューブ

総括

昨対130%に成長。順調な投資進捗
クラウドが上振れ、オンプレミス下振れ
営業利益・最終利益共に上振れ

海外

中国好調、シンガポール、タイも堅調に

KPI

ポート数引き続き拡大、単価も微増

戦略

[EduTech]
複数の買収を成功。社会インフラへの拡大堅調

2015年12月期 通期決算について

積極的な販売活動投資を実行。販路・販売力の拡大を実現。

連結	FY2014	FY2015 (百万円)	
	実績	実績	対前期比
売上高	4,681	6,083	130.0%
売上原価	1,980	2,722	137.5%
売上総利益	2,701	3,361	124.4%
販管費	2,297	3,013	131.1%
営業利益	403	348	86.3%
経常利益	594 <small>(為替差益 171百万円)</small>	179 <small>(為替差損 170百万円)</small>	30.2%
純利益	261 <small>(法人税等 220百万円) (少数株主利益 93百万円)</small>	93 <small>(法人税等 59百万円) (少数株主利益 25百万円)</small>	35.8%

< 連結業績総評 >

- 売上は、積極的な販売活動投資の成果、企業買収による、クラウド売上の成長に
アプライアンスの成長も加わり、前期比 130.0%と伸長
- 売上総利益は、高利益率のクラウド売上が順調に伸び、前期比 124.4%と増益
- 営業利益は、積極的な販売活動投資が影響し、前期比 86.3%
- 海外子会社への貸付金に対する為替評価替に伴う為替差損が影響し、
経常利益は179百万円 (前期は為替差益)
- 法人税等 59百万円、少数株主利益 25百万円があり、純利益は93百万円

<サービス（プロダクト）の強化>



ソフトウェア償却費、184百万円増加

拡大の為のインフラ等の追加コストが、54百万円増加

<販売体制の強化（コストが即発生し、投資回収が長期になるもの）>

営業人件費、 430百万円増加

販売政策費、 49百万円増加

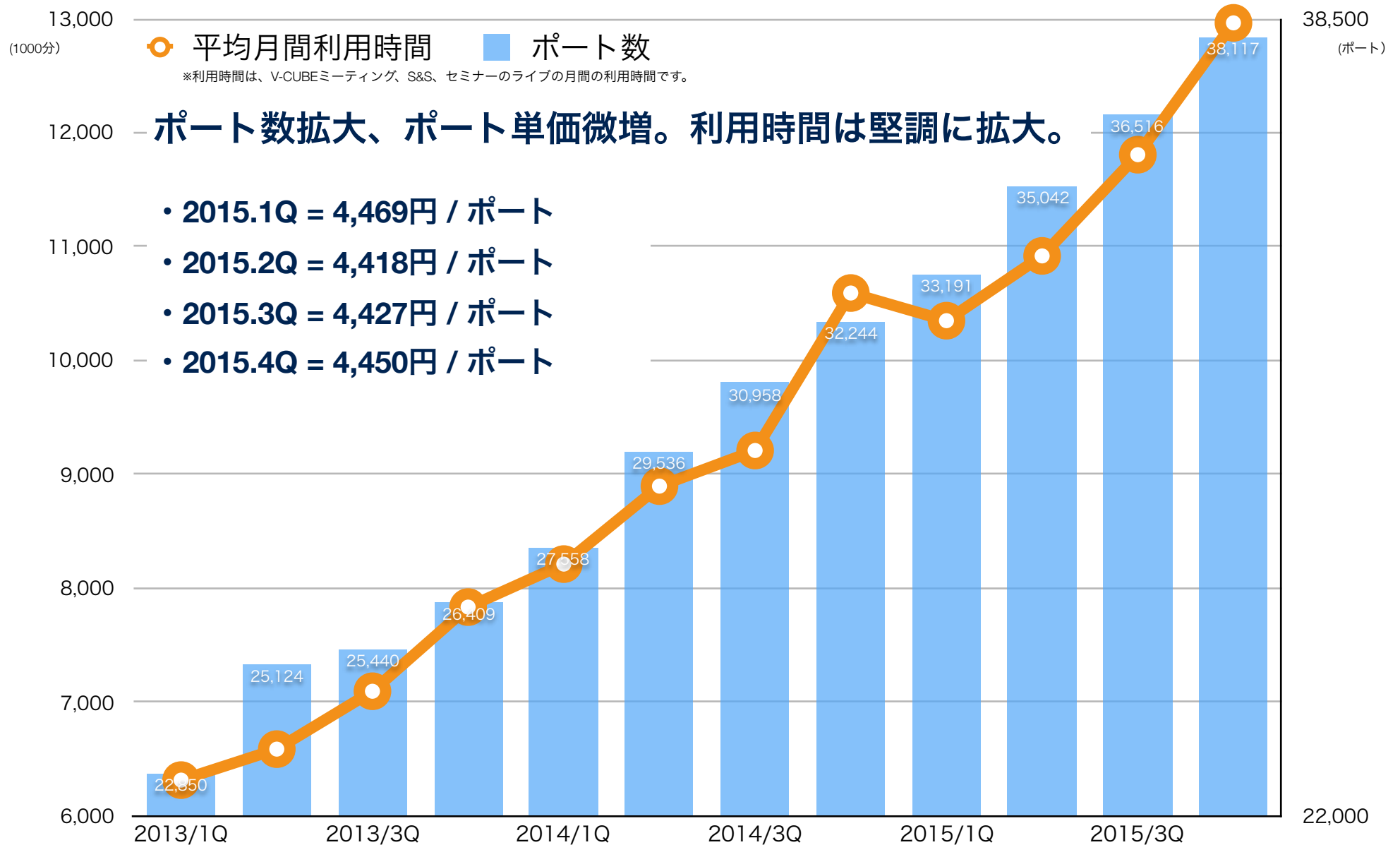
営業人員増に伴う地代家賃等の増加、 164百万円増加

クラウドは予想以上に伸長し、Wizlearnの連結開始も重なり、昨年の**1.4倍**に成長。オンプレミスは金融関係や海外案件のクロージング遅れにより軟調。アプライアンスについては昨年の**1.4倍**と順調に推移。

売上	FY2014		FY2015	
	実績		実績	対前期比
クラウド	2,822		3,947	139.8%
オンプレミス	771		504	65.4%
アプライアンス	852		1,218	142.9%
その他	234		413	176.1%
合計	4,681		6,083	130.0%

*アプライアンスの売上は、主にパイオニアVC株式会社(PVC社)での電子黒板システム、ディスカッションテーブル、ブイキューブのV-CUBE Boxの販売によるものです。

KPI - 国内契約ポート数の推移 (継続契約分)

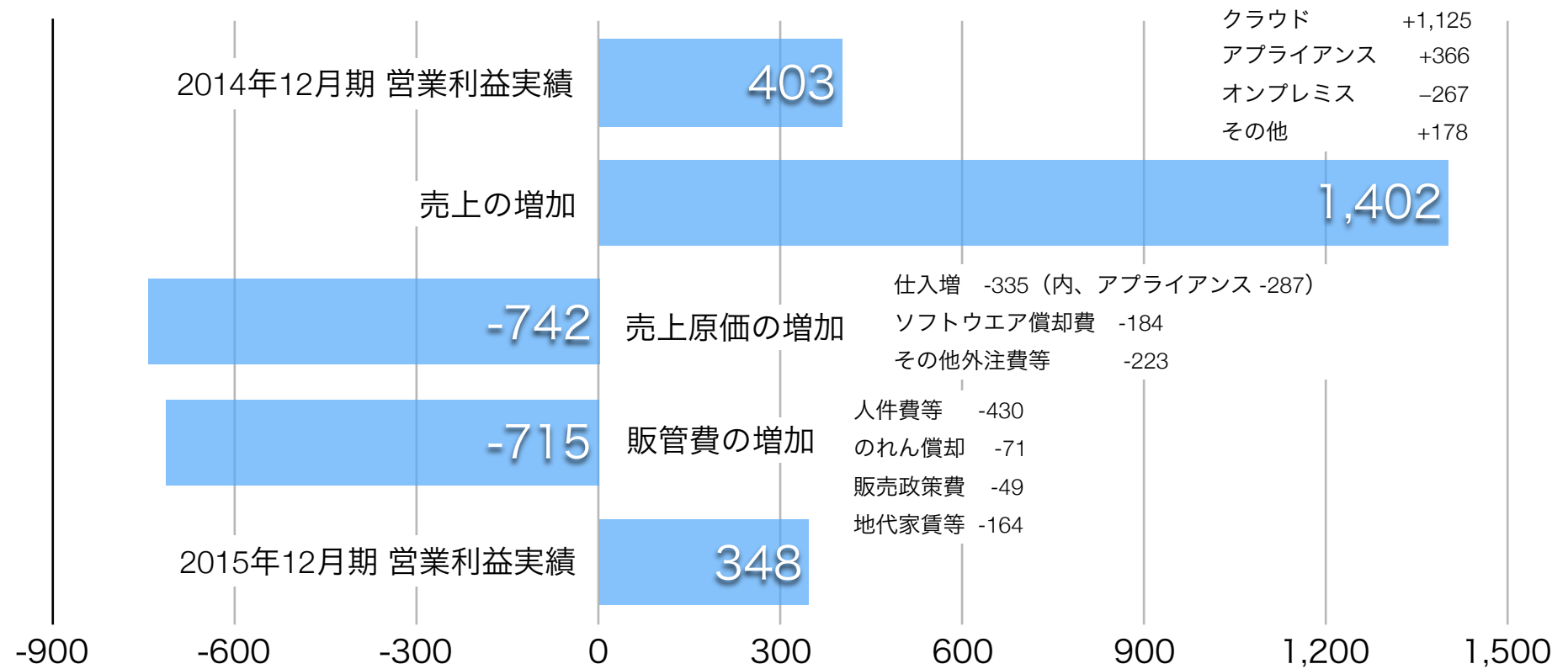


国内はクラウドの成長が牽引し、前期比**1.2倍**に成長。
 海外は**中国**が**1.4倍**、他海外が**4.7倍**に成長。各国の成長軌道と買収が寄与
 海外売上比率は14.7%から**21.4%**に拡大

地域別	FY2014	FY2015 (百万円)	
	実績	実績	対前期比
日本売上	3,993	4,783	119.8%
中国売上	590	836	141.6%
海外売上 (中国以外)	97	463	474.8%
合計	4,681	6,083	130.0%

※ 海外売上全体は、688百万円から1,300百万円と前期比1.9倍の成長となっています。

クラウド、アプライアンスの売上は堅調に増加したものの、積極的な販売活動投資による販管費の増加等が影響し、前期比で営業利益はやや減少
 修正予想からは、高利益率のクラウドの上振れにより、営業利益上振れ



※利益の増加要因を「+」、減少要因を「-」で表示 (単位：百万円)

買収を含む積極的な事業投資に伴い、ソフトウェア資産・のれんが増加。
買収に際して、借入が増加したが、自己資本比率 41%

	2014.12.31	2015.12.31	増減 <small>(百万円)</small>
流動資産 <small>(うち現金及び預金、有価証券)</small>	2,987 <small>(1,286)</small>	4,590 <small>(2,015)</small>	1,602 <small>(729)</small>
固定資産 <small>(うち ソフトウェア)</small> <small>(うち のれん)</small>	3,270 <small>(1,806)</small> <small>(833)</small>	5,702 <small>(2,358)</small> <small>(2,449)</small>	2,432 <small>(551)</small> <small>(1,616)</small>
総資産	6,257	10,292	4,034
流動負債 <small>(うち短期借入金、1年内返済の長期借入金)</small>	1,350 <small>(317)</small>	4,481 <small>(2,979)</small>	3,130 <small>(2,662)</small>
固定負債	506	1,209	702
純資産	4,400	4,601	201

* 2015年12月期末における無形固定資産は4,810百万円で、うち2,358百万円はソフトウェア・ソフトウェア仮勘定として計上されています。
2015年12月期におけるソフトウェア資産の積み上げ551百万円は、577百万円を償却する一方で、競争力強化の為に追加開発投資に伴う増加によります。

2016年以降の売上・利益の拡大に向け、買収を含む積極的な事業投資を行うとともに、買収に際して借入を実施し、投資活動CF・財務活動CFは大きく変動

	FY2014	FY2015 <small>(百万円)</small>
営業活動CF	△307	582
投資活動CF	△1,508	△3,037
財務活動CF	69	3,422
現金及び現金同等物の増減額	△1,725	923
現金及び現金同等物の期末残高	1,068	1,992

2016年12月期の 見通しについて

これまでの投資を事業成長、売上拡大につなげ、利益の大幅増加を目指す。
為替の変動はニュートラルにとらえ、営業利益の推移を重視する。

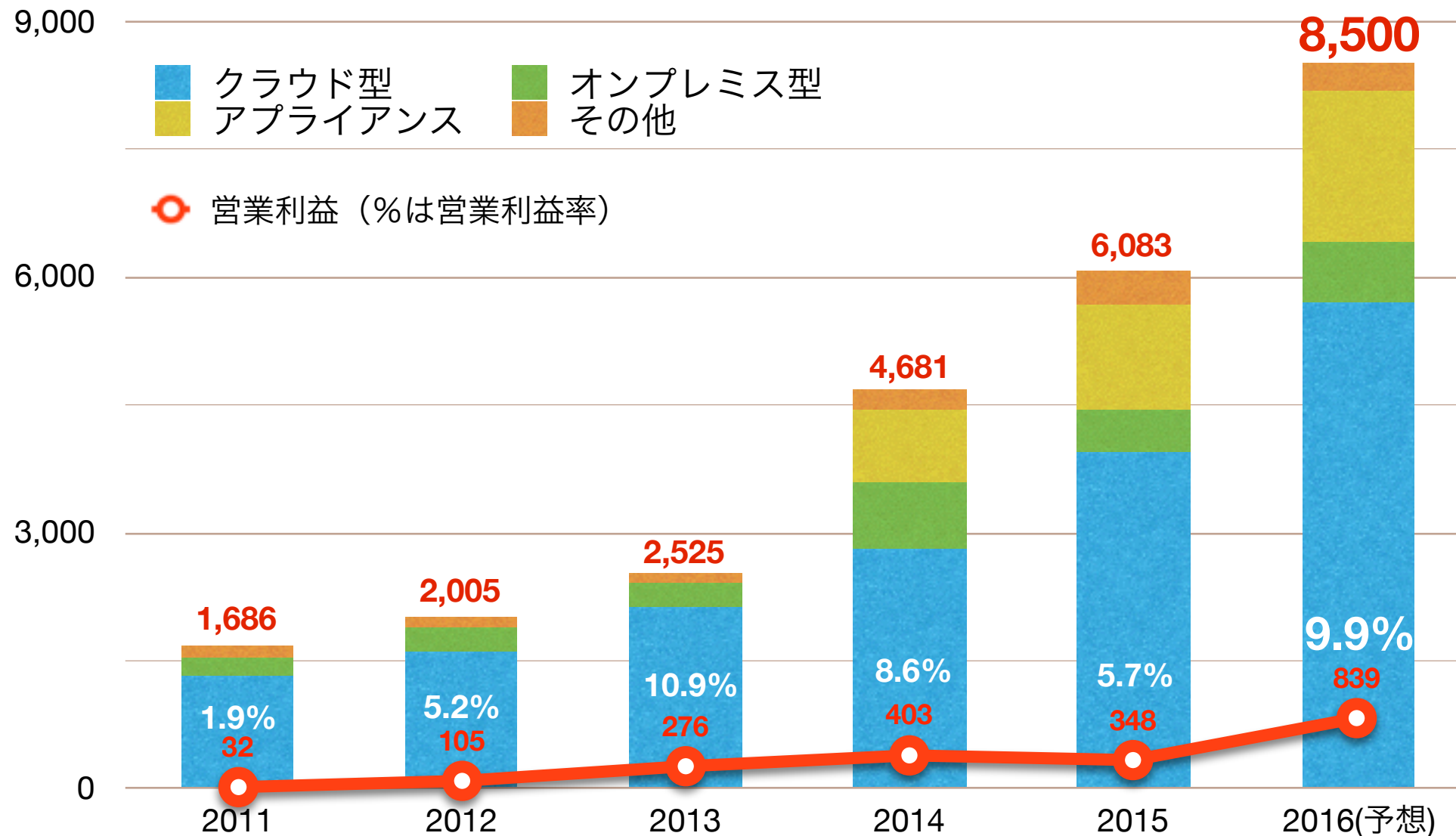
連結	FY2015		FY2016(予)			
	上期	通期	上期	対前期比	通期	対前期比
売上高	2,699	6,083	3,644	135.0%	8,500	139.7%
営業利益	194	348	148	76.2%	839	241.2%
経常利益	200	179	105	52.3%	771	429.5%
	(為替差益 8百万円) (為替差損 170百万円)					
純利益	68	93	112	165.0%	650	694.2%

(百万円)

M&Aも活用し、競争力強化と規模拡大を急ぐ。2016年は利益率向上へ



(百万円)



クラウドは堅調な成長を見込む。

オンプレミスは国内金融分野と中国・タイでの成長を見込む

アプライアンスは昨年度からの期ズレと、新規引き合いから強い成長を見込む

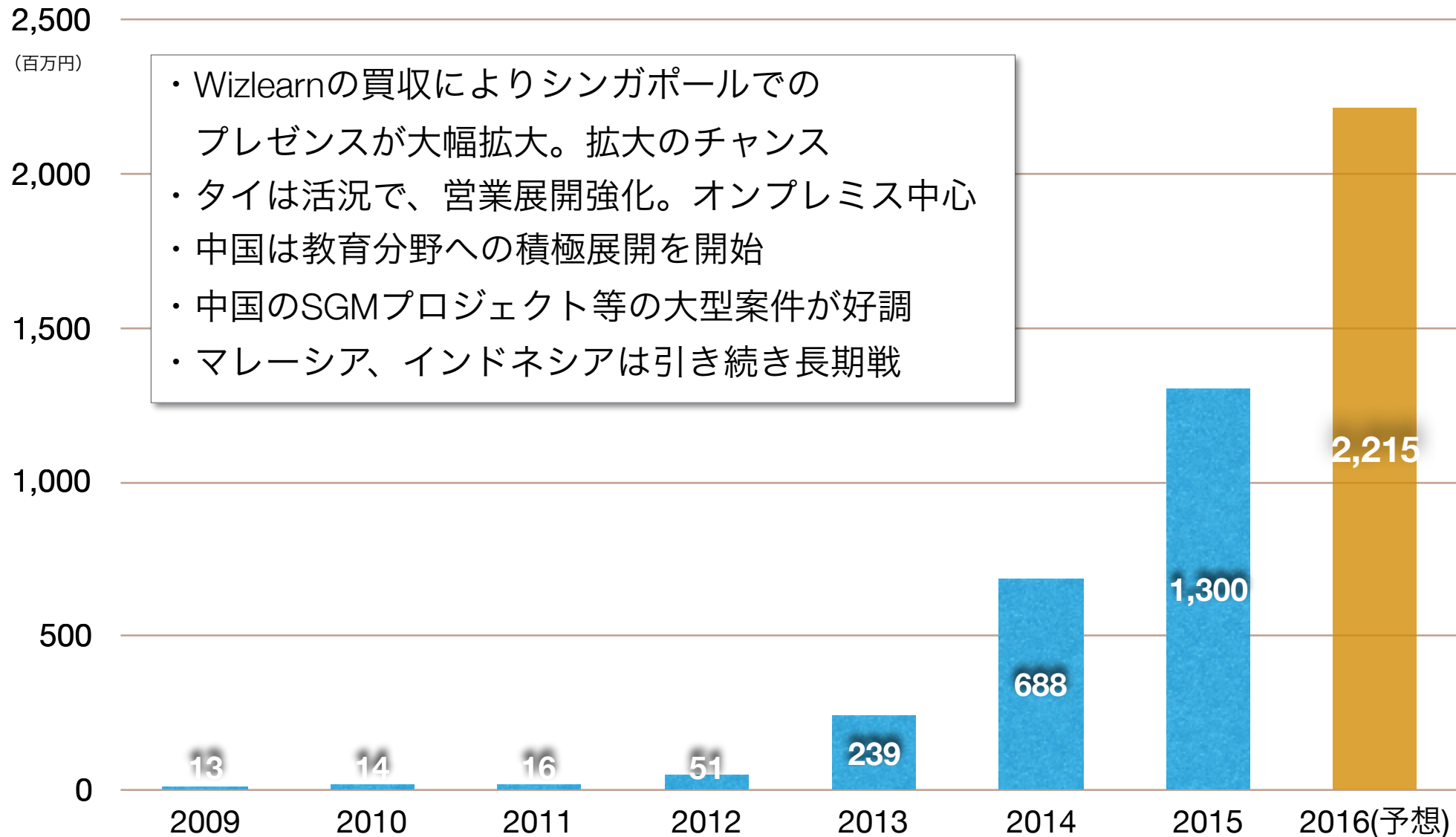
連結売上	FY2015	FY2016 <small>(百万円)</small>	
	実績	予想	対前期比
クラウド	3,947	5,690	144.1%
オンプレミス	504	710	140.9%
アプライアンス	1,218	1,776	145.8%
その他	413	323	78.3%
合計	6,083	8,500	139.7%

全ての地域で堅調に推移

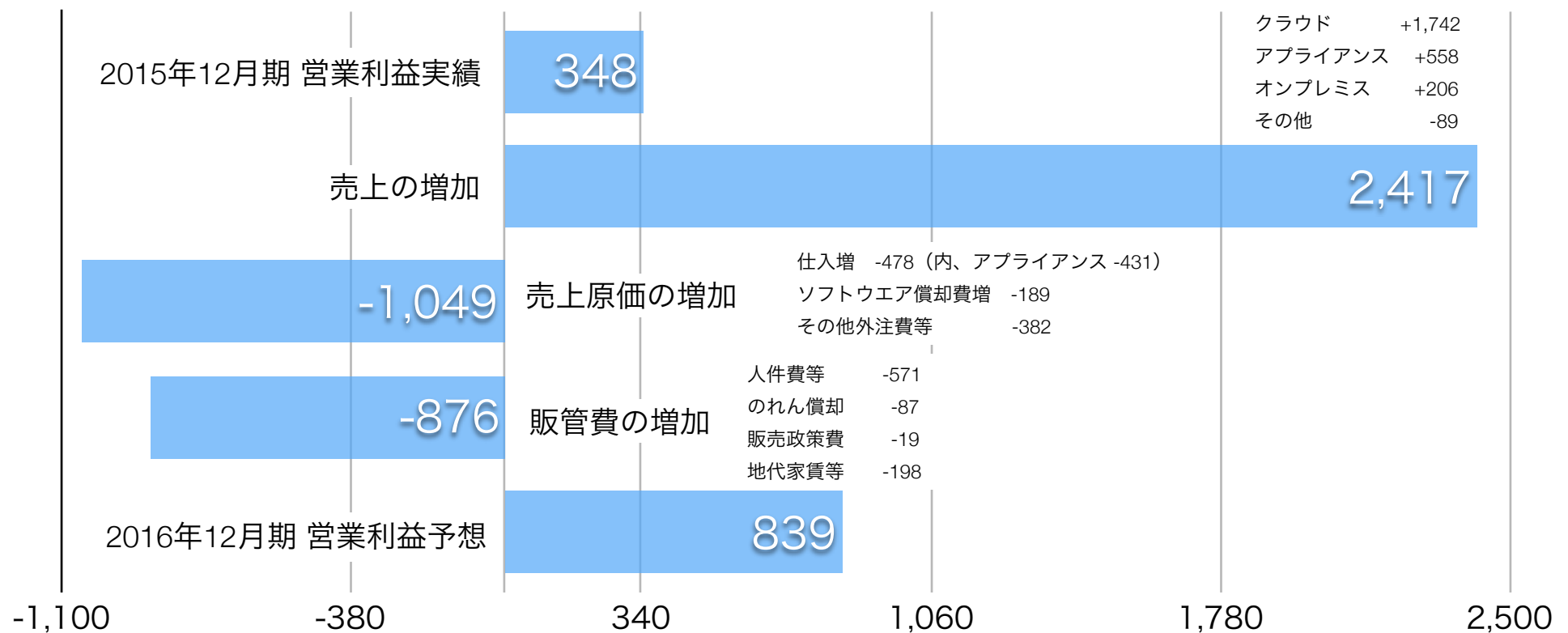
中国は教育事業の進捗を大きく見込み、その他海外は、Wizlearnの連結効果と、タイを中心とした堅調な伸長を見込む

地域別	FY2015	FY2016 <small>(百万円)</small>	
	実績	予想	対前期比
日本売上	4,783	6,284	131.4%
中国売上	836	1,127	134.8%
海外売上 (中国以外)	463	1,087	234.6%
合計	6,083	8,500	139.7%

海外は、中国とシンガポールの伸長により、前期比1.7倍、海外比率26%へ



引き続き積極的な投資は継続するものの、2016年は第1次収穫期を目指す。
 人員についても50名強の増員を見込み、来年以降の更なる成長に備えた展開。



※利益の増加要因を「+」、減少要因を「-」で表示 (単位：百万円)

アジアナンバーワンの ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム



見えるコミュニケーション

V-CUBE



ありがとうございました。

本書は、株式会社ブイキューブ（連結子会社を含む）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述を含みます。これらの記述は、当社が本書の作成時点において入手した情報に基づき、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポート等をご参照ください。

本書における将来に関する記述は、本書の作成時点のものであり、本書の作成時点の後に生じた事情によりこれらの記述に変更があった場合でも、当社は本書を改訂する義務は負いかねますのでご了承ください。

本書における当社以外の企業等にかかわる記述は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社はこれを保証するものではありません。本書で使用するデータまたは表現等の欠落、誤謬、本書の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本書にかかる一切の権利は、株式会社ブイキューブに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。